

## 「アフターデスティネーションキャンペーン（DC）」及び

### 3年間のDCの取組結果について

#### 1 キャンペーン期間

平成31年4月1日（月）～令和元年6月30日（日）

#### 2 アフターDCにおける主な取組

飲食・宿泊・交通事業者や関係団体で構成される宇都宮市DC推進委員会を中心に、民間事業者や行政など官民一体となって、周遊・宿泊促進に向けた各種事業を実施した。

##### (1) DC推進委員会

###### ア 周遊促進

- ・ 地ビールや日本酒など宇都宮の地酒を集めた「宮の酒フェス」の開催（5/10～12, 来場者約3,000人）
- ・ 市内北西部をめぐるサイクルツアーの実施（4/14ほか3日 参加者59人）
- ・ 大谷イシキリテラスにおけるイベントの開催（5/4, 参加者約40人）
- ・ 大谷石岩肌のライトアップの実施（4/1～5/6）

###### イ 宿泊促進

- ・ 宿泊施設における宇都宮の農産物などを使った「朝食フェア」の開催（4/1～6/30, 朝食会場使用人数：7施設合計約22,000人）
- ・ 【新規】カクテルバーをめぐるツアーの開催（5/22ほか3日, 参加者数39人）
- ・ 【新規】著名なアーティストによるジャズライブの開催（5/12ほか5日, 参加者数251人）
- ・ 【拡充】餃子・ジャズ・カクテルの「共通チケット」の複数券種の発行（4/1～6/30, 販売数170冊）

###### ウ プロモーション

- ・ 宇都宮観光コンベンション協会のホームページやSNSを活用した情報発信
- ・ 【新規】SNSへの投稿を促す臨時観光案内所へのフォトパネルの設置（4月～8月）
- ・ 【新規】東京スカイツリータウンでの観光PR（6/8～6/9）
- ・ 【拡充】餃子通りの電柱への餃子オブジェの装飾等による魅力向上（4月～）

###### エ おもてなし

- ・ シティガイドによる臨時観光案内所等での観光案内及び大谷でのツアーの開催（4月～6月）
- ・ JR宇都宮駅西口の花壇等を花で彩るウェルカムフラワーの実施（4/1～6/30）

##### (2) 民間事業者等

- ・ 大谷資料館での教会ゾーン特別公開の実施（6/1～6/30）
- ・ 【新規】交通事業者による宇都宮と日光を結ぶ定期観光バスの運行（4月～9月）
- ・ 【新規】JR宇都宮線の発車メロディをジャズ(カリフォルニアシャワー)に変更（通年）
- ・ 【拡充】若山農場の竹林のライトアップの実施（通年）

### (3) 宇都宮市

- ・ 大谷やろまんちっく村など北西部の観光施設を巡る「大谷くるくるバス」の運行（4/27～5/6, 乗車人数 609 人）
- ・ 中央卸売市場での漫画「八百森のエリー」作者プロデュースによるマルシェ開催（4/13, 来場者約 7,000 人）
- ・ 宇都宮美術館での企画展, 宇都宮タワーのライトアップなど特別企画の実施

## 3 取組結果について

アフターDC期間（4月～6月）の観光客入込数及び宿泊者数は、目標値である本番DCの数値を上回った。

	【目標値】H30 (DC)	H31 (アフターDC) H28 (DC開催前)	
観光客入込数	約 355 万人	約 356 万人 (約 338 万人)	H30 比 100.3% H28 比 (DC開催前) 105.5%
宿泊者数	約 40 万人	約 41 万人 (約 36 万人)	H30 比 102.7% H28 比 (DC開催前) 113.8%

※H31 は速報

## 4 民間事業者や観光客からの主な意見

### (1) 民間事業者

- ・ DC関係者との情報交換や, 共同の取組など連携が出来たことが成果だと思う。
- ・ 各団体の連携を継続させ, オリンピック等に向けても同様に対応していきたい。
- ・ 県外・訪日客に向けた広報活動が不足していた。

### (2) 観光客

- ・ カクテルとジャズを体験し, 宇都宮の夜の過ごし方の印象が変わった。
- ・ 臨時観光案内所で, 目的地までの行き方などを丁寧に教えてもらい感動した。

## 5 DC3か年の総括

- ・ DCをきっかけに, 餃子通りなどの新たな観光スポット等の創出や, カクテルバーをめぐるツアーなど夜の観光の強化により, 魅力の向上が図られるとともに, DC推進委員会をはじめ, 民間事業者等が連携を図りながら各種事業を展開するなど, 観光振興に対する機運が高まった。
- ・ 入込数・宿泊者数は, DC開催前の平成28年同期と比較し3年とも増加するとともに, DC終了後も事業者等による取組が継続されるなど, 年間を通じて本市への観光誘客が図られている。

## 6 今後の取組

- ・ DCをきっかけとして始まった事業などを来年の「東京オリンピック・パラリンピック」や2022年の「いちご一会とちぎ国体」につなげていくため, 市内事業者等との連携を一層深めながら, 観光資源の磨き上げや創出, 宿泊促進に向けた夜の観光の更なる充実, インバウンドの推進, 効果的な情報発信等に取り組んでいく。
- ・ DCの取組を一過性のものとせず, 継続・発展させていくことが重要であるとともに, 事業者より「DCをきっかけとして組織された委員会を存続させたい」という声もあることから, DC推進委員会を引き継ぐ体制を構築し, 本市の観光振興を図る。